

1. 今のインドをめぐる状況

1.1 インド情報をめぐる状況

- 1.1 民主主義と情報公開、情報の透明性。
- 1.2 公的な情報操作の有無。
- 1.3 情報公開制度(RTI, 2005)。申請却下ケースと対応スタッフ数。

1.2 インドの重要性

民主主義による経済発展⇔Freedom House : 77 (2018) ⇔71(2020)／民主国としての地位喪失の瀬戸際(V-Dem, 2020)。

2. 私の情報ツール

2.1 関心分野と情報源

インドの政治・外交、南アジアにおけるインド、インド太平洋と日米豪印。

(1) 日頃の情報収集でどのようなツールを使っているか？

☞ 講読紙誌は E-Paper/E-Magazine + 会議・研究会・現調

朝日、日経、*Japan Times*、*Indian Express*、*The Hindu*、*The Wire*、*EPW*、*Foreign Affairs*、*Foreign Policy*、*NYT*、*The Washington Post*、*The Economist*、*EastAsiaForum*、海外研究所オンライン・ジャーナル(Carnegie、Brookings、SPPRI、Lowy、アジ研新着アラートなど)。会議・研究会・現調。

(2) 出版社ごとの強み、新聞・雑誌の傾向は？

☞ 出版は印米英の大手なら OK。インドの Sage。新聞は全国紙。著者の信頼性。

(3) 中央政府、州政府の政府情報を扱う際にそれぞれ留意する点や信頼性は？

☞ 経済関係統計（特に経済関係）。執筆上信頼性に疑問があるときは、現地の友人・知人に確認。

(4) 情報収集の際、フェイクニュースかどうか？ファクトチェックは？

☞ フェイクニュースは必要な情報源。逆になぜこのニュースかなどがヒント。

(5) ネット上で一次情報（統計等）が公開されているが、消える（削除）情報対策？

☞ 消えそうな情報はプリント・アウト OR コピー・ファイルで保存。対策をとっている図書館などについては、よく分からない。

2.2 その他の情報源

ウィキペディア（英文）の情報（2020.11.19 付日経）。記述されている解説の情報源から芋づる式に探る方法。例えば、スバース・チャンドラ・ボースの死去状況を調べる事例。

https://en.wikipedia.org/wiki/Death_of_Subhas_Chandra_Bose

3. 具体的な事例

現在準備中の図書の場合。『モディ政権とこれからのインド』（仮題）とインド関係の新書。国立国会図書館には、今年、遠隔複写を約 10 件依頼したほか、アマゾンで古本を約 10 冊程度購入。

4. 情報検索ツール

4.1 国立国会図書館

平成 21 年度 (2009 年度) アジア情報研修「現代インド情報の調べ方」概要報告：アジア情報室通報 第 7 巻第 4 号 <https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/bulletin7-4-3.php>

4.2 アジア経済研究所の地域別資料ガイドのインド

https://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Region/South_asia.html

4.3 LC アジアコレクション中の南アジア資料

Introduction to the South Asian Collection (Webinar, 21st Nov, 2019) が詳しい。

<https://www.loc.gov/rr/asian/southasian-intro.html?loclr=fbint>

5. 情報提供機関側の対応

5.1 利用対象者のイメージは？

利用者対象者のマーケティングや利用者調査。

5.2 提供側の対応

提供者側の不断のレベルアップ。対象国に関する知識・情報度。現地調査の重要性。